

学 力 検 査

国 語

注 意

- 一 指示があるまでは、この用紙を開いてはいけません。
- 二 解答用紙は、この用紙の裏面です。
- 三 答えは、全て解答用紙に記入しなさい。ただし、の欄には、何も書いてはいけません。
- 四 字数を指示した解答については、句読点、かぎ（「」）なども一字に数えなさい。
- 五 検査問題は七ページで、問題は 一 から 五 まであります。

一 次の①～⑩の傍線部について、漢字は平仮名に、片仮名は漢字に改めなさい。

- ① 数種類の塗料を混ぜ合わせる。
- ② 誰もが羨むほど仲が良い。
- ③ 経営者として敏腕をふるう。
- ④ 湖畔には多くの観光施設がある。
- ⑤ 緩やかな坂道が続く。
- ⑥ 贈り物をきれいにホウソウする。
- ⑦ 図書館で本を力りる。
- ⑧ ツウカイな冒険小説を楽しむ。
- ⑨ バスのテイリュウ所で待つ。
- ⑩ 日本の夏は△し暑い。

二 次の文章は、江戸時代に、忠敬のもとで測量の手伝いをしている平次が、測量の記録を書き換えてしまったことについて謝罪する場面を描いたものである。平次は、忠敬たちとともに各地の測量を行いながら、蝦夷地（現在の北海道）に向かっていく。これを読んで、後の問いに答えなさい。

著作権に配慮して掲載を控えています

著作権に配慮して掲載を控えています

著作権に配慮して掲載を控えています

著作権に配慮して掲載を控えています

「星の旅人 伊能忠敬と伝説の怪魚」(小前亮)による。

(注) 津和野Ⅱ島根県の町。平次の出身地。

父Ⅱ平次の父は蝦夷地の測量中に行方不明になっており、平次は忠敬の手伝いをしながら父の行方を捜そうとしていた。

秀蔵Ⅱ忠敬の息子で、測量隊の一員。記録を書き換えた平次をかばっている。

問一  に入る最も適切な言葉を、ア～エから選び、符号で書きなさい。

ア ところで イ まして ウ だが エ なぜなら

問二 質問に怒りは感じられなかったが  の中から、動詞をそのまま抜き出して書きなさい。また、この場合の活用形を書きなさい。

問三 大切なことを忘れていたのだ  とあるが、平次が父から教えられた大切なこととは、どのようなことか。本文中から最も適切な部分(二十字)を抜き出して書きなさい。

問四  平次は心の奥が温かくなつてくるのを感じていた  とあるが、平次の心の奥が温かくなったのは、忠敬が自分の何を認め、どのような言葉をかけてくれたと感じたからか。三十字以上三十五字以内でまとめて書きなさい。ただし、「学問」、「反省」という二つの言葉を使い、「自分の」という書き出しに続けて書くこと。

問五 自分もそこへ行きたいと思った  とあるが、次の  内の文は、このときの平次の気持ちについて本文を踏まえてまとめた一例である。  
 A  B  に入る最も適切な言葉を、それぞれ本文中から抜き出して書きなさい。ただし、字数は  A  B  にそれぞれ示した字数とする。

三

忠敬の言葉に  A(八字) を感じ、自分の覚悟に自信を持てなかったが、父の言葉を思い出し、一歩ずつ進むことでしかたどりつけない  B(八字) の中の真理を追究しようとしている。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

著作権に配慮して掲載を控えています

著作権に配慮して掲載を控えています

著作権に配慮して掲載を  
控えています

「ふしぎな社会」(橋爪大三郎)による。

(注) コストIIここでは、何かをするためにかかる労力のこと。

シンクロナイズの略。同時に起こること。

問一

□には、「一人の言葉の真偽などをよく考えず、そのまま受け入れること」という意味の言葉が入る。□に入る適当

な言葉を平仮名三字で書きなさい。

問二

調整<sup>1</sup>と同じ構成の熟語を、ア～エから選び、符号で書きなさい。

ア 視点    イ 豊富    ウ 興亡    エ 消火

問三 大切なもの<sup>2</sup> とあるが、次の  内の文は、大切なものを

手に入れるために筆者が必要だと考えていることについて、本文を踏  
まえてまとめた一例である。  A  B に入る最も

適切な言葉を、それぞれ本文中から抜き出して書きなさい。ただし、  
字数は  A  B にそれぞれ示した字数とする。

大切なものを手に入れるためには、あれもこれもと考えて、

A(八字) することがないように、大切なもの以外は  B(七字) を  
持つことが必要である。

問四 <sup>3</sup> | のと同じ意味・用法の「の」を、ア～エから選び、符号で書きなさい。

ア 友人の|作ったケーキを食べる。 イ 何時に|帰ってくるの|。

ウ 学校の|宿題に取り組み。 エ 外を歩くの|が好きだ。

問五 <sup>4</sup> | 社会学は、どういうものか とあるが、筆者が考える社会学とはどのような学問か。最も適切なものを、ア～エから選び、符号で書きなさい。

ア 社会のルールや決まりから独立した勝手な希望や意思を尊重しあ  
い、人びとは社会を動かしている。その希望や意思を科学的・客観  
的に研究する学問。

イ 社会の中で人びとはルールや決まりに背いて、勝手な空想から各  
自が法則性を見いだしている。その法則性を科学的・客観的に研究  
する学問。

ウ 社会の法則を常に意識した生き方を強いられた人びとは、勝手に  
生きることを否定されている。その生き方を科学的・客観的に研究  
する学問。

エ 社会の中で、人びとは勝手に生きてるように見えるが、法則に  
従ったルールや決まりができあがっている。その法則を科学的・客  
観的に研究する学問。

問六 この文章で述べられている筆者の考えと合っているものはどれか。  
最も適切なものを、ア～エから選び、符号で書きなさい。

ア 幸福を手に入れるためには、他人と自分を比べず自分を大事に  
すること、他人の役に立ち喜んでもらうことを自分の喜びとする  
ことが必要である。

イ 幸福を手に入れるためには、他人と自分を比べ自分を大事にす  
ること、自分に合う生き方を他人に探してもらうことが必要であ  
る。

ウ 幸福を手に入れるためには、他人に頼らずに周囲より高い評価を  
得ること、自分の人生の条件を自らの力で整えていくことが必要  
である。

エ 幸福を手に入れるためには、他人の気持ちに寄り添い自分の気持  
ちは優先しないこと、他人が自分のために活動するのを受け入れ  
ないことが必要である。

四 次の「I」の文章と「II」の和歌を読んで、後の問いに答えなさい。

「I」

八日。障ることありて、なほ同じ所なり。  
(都合の悪い) (依然として)

今夜、月は  にぞ入る。これを見て、業平の君の

「山の端逃げて入れずもあらなむ」といふ歌なむ思ほゆる。  
(山の陵線よ、逃げて月を入れられないでほしい) (歌のことが思い出される)

もし、海辺にて詠ましかば、「波立ち障へて入れずもあらなむ」  
(業平の君が海辺で詠んだならば) (波が立って邪魔をして月を入れられないでほしい)

とも、詠みてましや。今、この歌を思ひ出でて、或人の詠めりける。  
(とても) (詠んだのだろうか) (ある人が詠んだ歌は)

A 照る月のながるる見れば

(照る月が流れて沈んでいくのを見ると)

天の川出づるみなとは海にざりける  
(天の川が流れ出る所は海だったのだなあ)

とや。  
(とかいうのであった)

「土佐日記」による。

「II」 業平の君の歌

飽かなくにまだきも月の隠るるか  
(まだ見足りないのにもう月が隠れてしまうのか)

山の端逃げて入れずもあらなむ  
(山の陵線よ、逃げて月を入れられないでほしい)

(注) 業平の君 II 平安時代の歌人。

問一 なほを現代仮名遣いに改め、全て平仮名で書きなさい。

問二  に入る最も適切な言葉を、「I」のAの和歌から抜き出して書きなさい。

問三 波立ち障へては、「II」の和歌のどの部分を言い換えているか。

「II」の和歌から抜き出して書きなさい。

問四 「I」の内容を説明したものととして最も適切なものを、ア～エから選

び、符号で書きなさい。

ア 作者は、月が沈んでゆく情景を目にして、同じように月が沈む情景を詠んだ業平の和歌を思い浮かべ、業平ならどのような和歌を詠むだろうかと想像したことを日記に書いている。

イ 作者は、月が沈んでゆく情景を目にして、月が見えなくなることを残念に思っていたところ、作者の気持ちを紛らわそうと業平が和歌を詠んでくれたと日記に書いている。

ウ 作者は、月が沈んでゆく情景を目にして、同じように月が沈む情景を詠んだ業平の和歌を思い出そうとしてみたが、自分は思い出すことができなかつたと日記に書いている。

エ 作者は、月が沈んでゆく情景を目にして、一緒に月を見ている業平が詠んだ和歌を思い出したので、その和歌の出来ばえについて二人で語り合つたと日記に書いている。

五

A 中学校では、「情報機器の普及」というテーマで調べ学習を行い、グループごとに発表することになった。あるグループは、市内で調査した結果をもとに、発表原稿を作成した。次の【調査結果】と、【発表原稿の一部】を読んで、後の問いに答えなさい。

【調査結果】

「情報機器の普及によって受けると思う影響」(複数回答可)

- ① 手で字を書くことが減る。 89%
- ② 漢字を手で正確に書く力が衰える。 89%
- ③ 人に直接会いに行つて話すことが減る。 55%
- ④ パソコンやスマートフォンなどで、気軽に文章を作成するようになる。 23%
- ⑤ パソコンやスマートフォンなどで、漢字を多く使うようになる。 16%

【発表原稿の一部】

私たちは、情報機器の普及によって受けると思う影響について、市内で調査を行いました。その結果について発表します。

「情報機器」とは、現在、私たちの身の回りに広く行き渡っている「パソコン」や「スマートフォン」などのことです。

調査結果の④と⑤から分かるように、約二割の人は、気軽に文章を作成したり、漢字を多く使うようになったりすると回答しています。

一方、①と②から分かるように、

と回答しています。

(中略)

情報機器の普及によって私たちはさまざまな影響を受けていることが

分かりました。このような社会において、私たちはどのようなことを大切にしていくとよいか考えていきたいです。

以上で発表を終わります。ありがとうございました。

問一  に入る適切な言葉を、三十字以上四十字以内で書きなさい。

問二 情報機器が普及し、インターネットが発達する社会において、あなたはどのようなことを大切にしたいと思うか。あなたの考えを書きなさい。段落構成は二段落構成とし、第一段落ではあなたが大切にしたいと思うことを、第二段落ではそのように考えた理由を書きなさい。ただし、次の《注意》に従うこと。

- 《注意》 (一) 題名や氏名は書かないこと。
- (二) 書き出しや段落の初めは一字下げること。
- (三) 六行以上九行以内で書くこと。



# 国語解答用紙

の欄には、何も記入しないこと。

**一**

①		②		む	③		④		⑤	やかな
⑥		⑦		りる	⑧		な	⑨		し

**二**

問一										
問二	動詞						活用形			形
問三	じぶ。									
問四	自分の	どうい言葉をかけてくれたと感じたから。								
問五A										
問五B										

**三**

問一					
問二					
問三A					
問三B					
問四					

問五			
問六			

**四**

問一										
問二										
問三										
問四										

**五**

問一																			
----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

問二											5											10											15											20

合計	
----	--

受験番号	
------	--



国語解答 計100点

(注)ここに示した以外の細部については、学校ごとに統一すること。

問題	正答	配点	備考
一 20点	① とりよう ② うらや ③ びんわん ④ こほん ⑤ ゆる ⑥ 包装 ⑦ 借 ⑧ 痛快 ⑨ 停留 ⑩ 蒸	各2点 計20点	
二 25点	問一 ウ 問二 動詞 感じ 活用形 未然形 問三 基本をおろそかにせず、コツコツと努力する 問四 熱意を認め、これまでの学問に対する気持ちや、やり方を反省して前に進め (三十四字) 問五 A とてつもない重み B 広大な学問の世界	問一 3点 問二 4点 問三 4点 問四 8点 問五 各3点 計6点	問一 ともに正解で正答とする。 問四 正答の一例である。 次の二つの内容が書かれていること。 ①「(自分の)熱意を認め(てくれたと感じた)」ということ。②「これまでの学問に対する気持ちや、やり方を反省して前に進め(という言葉)をかけてくれたと感じた」ということ。
三 25点	問一 うのみ 問二 イ 問三 A エネルギーが分散 B あきらめる勇気 問四 ウ 問五 エ 問六 ア	問一 3点 問二 3点 問三 各3点 計6点 問四 3点 問五 5点 問六 5点	
四 15点	問一 なお 問二 海 問三 山の端逃げて 問四 ア	問一 3点 問二 4点 問三 4点 問四 4点	
五 15点	問一 約九割の人は、手で字を書くことが減ったり、漢字を手で正確に書く力が衰えたりする (三十九字) 問二 (略)	問一 5点 問二 10点	問一 正答の一例である。 表記に誤りがなく、調査結果の①と②から分かることが述べられていること。 問二 内容①情報機器が普及し、インターネットが発達する社会において、大切にしたいと思うことについて述べられていること。②そのように考えた理由が述べられていること。と表記(表記等に誤りがなく、言葉の使い方が適切であること)について、総合的に評価すること。